

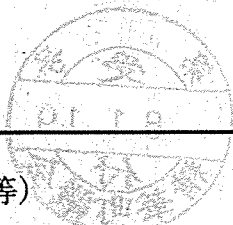
第5 取扱い基準各種様式
手引き様式第4



会派研修報告書

令和 8年 1月 19日報告

| 編纂種別 | 議長 | 副議長 | 委員長 | 会派代表者 | 事務局長 |
|----------------------------------|---|-----|-----|-------|------|
| 議員研修 (委員会・会派) | | | | | |
| 回覧 | | | | | |
| 報告者 | 京都自由の会 会派代表 (氏名) 西田 亜紀 | | | | |
| 標 題 | 東広島市視察 研修について | | | | |
| 研 修 日 時 | 自 令和8年1月8日(木曜日) 7時45分から 至 令和8年1月9日(金曜日) 16時25分まで | | | | |
| 研修場所 | 東広島市役所 東広島市 西条駅～広島大学間(自動運転EVバス試乗) | | | | |
| 主 催 | | | | | |
| 参加者 | 京都自由の会 西田亜紀 辻井崇余 (爽風会 岡田三郎 山下芳一 尾崎 智 三原 和久) | | | | |
| 内 容 | | | | | |
| 上記のとおり管外研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。 | | | | | |
| 記 | | | | | |



○ 研修の目的（計画・事前の資料等）

1, 行政の地域コミュニティ活性化の取組み

東広島市では、市民協働の取組みを進める中、住民自治組織の円滑運営の一助となるよう、住民自治協議会や自治会、地域活動団体等による地域活動を支援するため、様々な補助金制度や事業を行っている。そうした東広島市の地域コミュニティの現状と、活性化に向けた取組の内容とめざしている効果などを研修する。

2, 東広島市 自動運転 EV バス試乗視察

東広島市では、2023年度から自動運転・隊列走行BRTの実証事業を進めていて、今回はバス車両がEVバスとなったのと運行システムを変えて、基本全区間自動運転で運行する関係者試乗会に参加した。

○ 研修参加者のレポート

参加者から提出されたレポート（報告書）を添付

西田亜紀 辻井崇余

○ 研修報告書

●研修内容

1, 東広島市の地域コミュニティの現状と市民協働のまちづくりを通じた地域振興部地域づくり推進課の取組み

添付資料「本市の市民協働のまちづくり」での説明

（内容）

①東広島市の概要について

1974年東広島市の誕生

人口 令和7年 約19万人 人口微増傾向だが高齢化率は年々上昇（25%）

第5次東広島市総合計画

基本計画 未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市を目指す

目指す姿の5つのうち 次の時代を見据えた地域共生社会の実現を定義

②地域コミュニティについて ～住民自治協議会～

住民自治協議会 = 小学校区を基本に、住民個人のほか、各種団体、市民活動団体、地域の学校、企業・事業者など多様な地域コミュニティで構成する地域づくり団体。

・住民自治協議会は、市内48地域で活動

その自治協を構成する団体から、各種の部会 地域づくり、環境、

生涯学習、福祉、総務、防災・防犯などを編成している。

以前は各地区 自治会等に委嘱していたが、市民協働のまちづくり以後は行政と住民自治協議会とのパートナーシップの関係へと変化していった。

・住民自治協議会の役割（必須業務） 12項目

③まちづくり活動応援補助金について

- ・目的 住民自治協議会や市民団体など、市民協働の多様な担い手が、地域のニーズや課題を把握し、自分たちの特性を活かして、主体的に地域のために行う活動に対し、補助金を交付することで応援すること。
- ・補助対象枠に応じて 補助率と上限額が決められている。
- ・採択のポイントは、一過性ではなくその後の展開を通じて、継続して定着させることを目指し、地域・団体の発展はもちろんのこと、他地域・他団体への波及効果を期待できる公共性の高い活動であること。
- ・課題と今後の方向性
課題 補助期間終了後、自立した活動を継続出来ているのは少数。
⇒その後の活動の状況把握が難しく、市との関係も希薄に
⇒団体から永続的な補助を希望する声
今後の方向性 補助金活動団体の活動の情報発信を強化。
⇒他団体や地域とのつながりづくり
⇒自立した活動への発展を期待
⇒補助金制度の認知度向上

④認可地縁団体について

- ・法人格の取得により、団体名義での不動産の取得・登記等、財産の管理が可能となり、個人や共有名義で不動産を所有している場合に起こりうる相続トラブルなどを回避でき、団体の資産を安定して管理することができる。
- ・課題 手続き等の運営負担の増加
解散時の財産の取り扱い

⑤地域コミュニティの課題と方向性について

- ・市民協働のまちづくりの取組み
平成21年に「まちづくり指針」に基づき「第1期行動計画」(H21~H24)策定から5年ごとに行動計画を策定 現在は「第4期行動計画」(R6~R12)
- ・課題
(市民) 自治会等へ未加入世帯の増加から地域の担い手育成や多様な世代参画(住民自治協議会)協議会制度開始から10年経過。地域の実情の変化から新しいニーズが生まれる。地域経営の視点を持った運営体制や事業方針を変える必要。
(行政) 行政と地域の関係性を見直しや行政による適切な支援制度・体制の構築
住民自治協議会の負担軽減し、自発的な活動を促進する
凝視の適切な支援制度と団体間での連携による課題解決・活動を促す

・方向性 「多様な協働」

1. 市民がまちづくりに参加しやすい環境づくり
2. まちづくりに対する意識醸成・人材育成
3. 地域コミュニティへの支援体制の強化
4. テーマコミュニティへの支援体制の強化
5. 活動拠点施設の充実

2. 東広島市 自動運転 EV バス試乗視察

○広島市が自動運転 BRT の実証事業を始めて 3 年目になり、新しい EV バスによる試乗会に参加した。

運行区間 西条駅ロータリーから広島大学周回道路から中央公園前バス停
運行時間 約 1 時間

○今までの自動運転バスとの違い

- ・バス車両が大型 EV バス
- ・運行システム 衛星測位システム (GNSS) だけでは受信状況が不安定になる時があるので、センサーでの観測情報と 3D マップを照合する技術 (SLAM) を活用して、さらに精度アップした。
- ・全区間での自動運転実施

西条駅ロータリーや広島大学周回ルート、また高架下では自動運転は難しかったのが、すべて自動運転で走行した。

○計画では、2027 年度には今回の西条駅から広島大学間の商業運行を目指している。

○ 研修先での入手資料等

- ・本市の市民協働のまちづくり」データでの配信
- ・「東広島市の概要」
- ・「自動運転バスに乗ってみよう」チラシ

○ 研修経費

(運賃 1 人当たり)

近鉄電車往復運賃 (新祝園駅～京都駅) 590 円×2=1,180 円

新幹線運賃 (京都駅→広島駅) 11,540 円

新幹線運賃 (広島駅→京都駅) 11,740 円

JR 山陽線往復運賃 (広島駅～西条駅) 590 円×2=1,180 円

(宿泊代金) 9,700 円 7,550 円

2 名合計 17,250 円

研 修 報 告 書

平成8年1月15日

会派代表者

西田 亜紀 様

(研修参加者)

(氏名) 西田 亜紀

下記のとおり、視察研修に参加しましたので報告します。

記

| | |
|--------------------------------|---|
| 1. 研 修 日 | 令和 8年1月8日(木)～9日(金) |
| 2. 所 感 (個人的な感想・ 本町への応用等) | <p>1日目 東広島市役所 (地域コミュニティの活性化をめざしたまちづくりの取組みについて) 視察した。</p> <p>地域コミュニティが活動を継続・発展させていくためには、行政による適切な支援制度・体制の構築が必要になると思った。</p> <p>市民がまちづくり活動への関心を持ち、気軽に積極的に地域コミュニティに参加できる環境づくりなど、様々な課題がある。</p> <p>そのためには多様な活動を行う人材の確保や育成に関する支援体制の強化などがある。</p> <p>2日目 自動運転EVバス試乗視察(BRT)</p> <p>交通渋滞の解消、自家用車が運転できなくても(しなくても)便利で質の高い「生活や移動」ができるために検討を行っている。</p> <p>専用の走行空間を設けるなど、速達性や定時性をたかめたバスで、自動運転技術を組み合わせたもので、人が運転する際の認識、判断、操作の3つの作業を機械が行なうことにより安全な。</p> |

運行が可能になる。

自動運転の導入には、ドライバー不足の解消などがある。

また課題として費用、技術的、安全性の確保などがある。

研 修 報 告 書

平成8年1月15日

会派代表者

西田 亜紀 様

(研修参加者)

(氏名) 辻井 崇余

下記のとおり、視察研修に参加しましたので報告します。

記

| | |
|--------------------------------|---|
| 1. 研 修 日 | 令和 8年1月8日 (木) ~ 9日 (金) |
| 2. 所 感 (個人的な感想・ 本町への応用等) | <p>一日目 東広島市役所にて、地域コミュニティの活性化について研修しました。時代背景と共に自治会そのものや、自治会行事などの活動が縮小やなくなる中で地域のコミュニティは形態を変えて防災訓練等を通じ存続していくという話もなされました。</p> <p>二日目 東広島市 BRT 自動運転バスに試乗しました。 西条駅から広島大学までを自動運転により運行されました。 将来的に、人口減少に伴ってバスの運転者不足などを考えてみても若い世代の車を持たない人が多い時代に地域公共交通は住民の生活の足となる。このことから、自治体として本町も BRT 自動運転バスの実施導入に向けて、早期に着手するべきであると思いました。</p> |